

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391000334		
法人名	株式会社 導夢		
事業所名	グループホーム導夢 (導)		
所在地	愛知県名古屋市中川区吉良町138-4		
自己評価作成日	平成31年3月15日	評価結果市町村受理日	令和元年5月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様のペースで生活することができ、アットホームな雰囲気がある。 ・駅から徒歩1分の場所にあり、ご家族様の来所や職員の出勤に便利

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kani=true&UgyosyoCd=2391000334-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>あおなみ線荒子駅から徒歩1分という交通の利便性の高い場所に事業所は位置し、周りは住宅地や保育園が隣接している。2階建てで、白と青を基調としたモダンな佇まいの事業所は開設1年を経過し、居宅介護支援や訪問介護事業所が併設されている。居間などの共有空間や居室などもユニットや居室ごとにドア、床、壁などの色彩が工夫され、落ち着いた大人の生活空間を醸し出している。管理者も異動して5か月余り経過し、今までの良き運営や支援を継続していくことと、これからグループホームとして何を大切にしていくかを職員と共に考え、日々のケアに努めている。入居者の「今まで培ってきたこと」や「今できる」を大切にし、お好み焼きを営んでいた方、習字の先生、編み物、礼拝、季節行事の食事づくり、家事仕事など、これまでの特技や趣味、生活経験などの継続も職員に支えられ楽しみながら行っている。保育園児や中学生との交流は、入居者の笑顔と活力の源となっている。また、神社の祭礼やスーパーでの買い物、喫茶店などは地域の新しい馴染みともなっている。日本人の食事に欠かせない味噌汁の味噌は全国から取り寄せ、味や香りを楽しんだり、コーヒーや飲料水のサーバーを常設し、ティータイムを満喫している。明るいうらびのソファや畳、食卓の椅子など自分の好きな場所で、ゲームをしたり気の合う同士でお喋りしたりテレビを見てのんびりと過ごしている。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階
訪問調査日	平成31年3月25日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有および実践はあまり出来ていないと思われる。	理念と行動指針を会社案内に記載し入職時に説明している。月1回のカンファレンス会議や職員会議などで理念について話し合い、振り返りをして日々のケアに繋げるように努力している。	理念を職員が常に見える所に掲示したりして、職員の目指すべき方向性などを明確にし、同じ将来像を共有できることを期待したい。また職場の将来像が具体的に描かれた目標などを設定して、サービスの向上により一層繋げていくことを希望したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的ではないが、行事ごとの交流は出来ている。	町内会に加入し、町内会長や民生委員、近所の方や掲示板などで情報を得て、地域の催し物を見に出掛けている。地域の商店や飲食店などの利用や散歩時には近隣の方との挨拶をするなど地域とのつながりを大事にしている。保育園児との交流や中学生の職場体験などを受け入れている。敷地内に自販機を設置し、地域の輪づくりの場を提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流はあまり持っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行えていると思う。	10月から管理者が代わり、運営推進会議の資料が保存されていないため、今年度の開催実績は、入居者家族6名と、保育園園長の参加を得て1回となっている。事業所の運営や活動状況の報告、今後の取り組みなどを議題として取り上げ、参加者と活発な意見交換が行われ、参加者からの意見や提案等はその場で話し合ったり、記録して会議などで協議しサービスの向上に活かしている。	入居者家族や地域に運営推進会議を通して地域やホームの情報を得る機会があることや開かれた交流の場として理解を深めて頂くために、運営推進会議の開催案内や議事録の配布、年間計画などで予定や内容を知らせたりするなどの工夫をして、より多くの参加者を得て開催できるような取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	協力関係を築くよう取り組んでいると思う。	行政担当窓口には介護保険更新手続きや申請の代行業務、サービスの取り組みなどを伝えたり、困難事例などの相談を受けたりして情報交換をしながら良好な協力関係を築いている。管理者は市主催の研修会に積極的に参加し、職員に研修内容を伝え、サービス向上へ繋げるように努めている。地域包括からは認知症カフェの開催を依頼されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が身体拘束のことを理解し、身体拘束をしないケアが出来ている。	年1回身体拘束廃除や接遇のマニュアルを利用して研修する機会があり、職員同士で接し方などに問題がないかチェックし合い、拘束に対する意識を高めている。特にスピーチロックに配慮し、束縛感のない環境造りに努めているが職員の意識レベルの差がみられるため、認識を高めるように内部研修や勉強会を予定している。入居者は、職員の見守りの中で、開放的で自由な暮らしができるよう支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット内で研修をし、資料を渡して虐待が起こらないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はあまりなかったため、内部研修を予定している。関係者との話し合いは適宜出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者やご家族に説明を行い、理解・納得を得る事が出来ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見を聞き、意見を反映させるよう努めている。	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞いている。意見や要望などは、申し送りノートや業務日誌に記録したり伝言板を利用して情報を共有し運営に反映させている。家族からは面会時や2か月に1回開催される家族会、行事の折に意見や要望を聞き、ケアや業務改善に役立てている。「導夢だより」を毎月発行したり、ブログなどで入居者の様子を記載して家族に安心を届けている。日ごろから意見を述べやすい雰囲気や環境を整えるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議の頻度は不定期だが、職員一人一人の意見を聞く時間を設けていると思う。また、積極的に反映している。	日常の業務の中や引継ぎ時また、ユニット会議などで職員からの提案や要望を聞き、協議をして運営に反映させている。管理者は、日常の休憩時間などで個人的に話す機会を持ち、やりがいや健康状態、勤務の希望や悩みなど聞く機会を設け、業務や職場環境などに反映させている。処遇などその場で対処できない場合は、社長と相談し解決できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者等は勤務者の状況を把握しているが、各自が向上心を持っていない。職場環境は整っていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の機会はあまりないが、ひとりひとりに合わせたトレーニングに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の交流の機会はあまりないが、ご利用者や施設での訪問の機会はある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望や不安等をお聞きし、関係づくりに努める事が出来ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っていること、不安なこと、要望等お伺いし、関係づくりが出来ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前にご本人、ご家族と話しをし、支援を見極め、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者同士の関係を築いていると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切に、共に本人を支えていく関係が出来ていると思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	上手く支援出来ているように思えない。	入居時に生活歴や馴染みの人や場所を把握し、今までしてきた生活を取り入れ、生活が再現できる支援を目指している。友人や家族が来訪して談笑したり、家族の協力を得て美容院や墓参りに出掛けその時々懐かしみなどの関係性が継続できるよう支援している。また、近所のスーパーや喫茶店などは、新しい馴染みとなっている。毎週教会に出掛ける方や編み物をされる方、お好み焼き屋を営んでいた方、習字の先生など今まで培った特技や経験を楽しみながら日常に活かされるような支援を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合いを持てるよう支援出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じてフォローしていると思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めており、困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の気持ちに寄り添い、些細な変化を見逃すことがないように心がけたり、午後のゆっくりした時間に入居者と一緒にコーヒーを飲みながら話をする時間を作り、さりげない会話や表情などを感じ取り、申し送りノートや業務記録に記載して会議などで話し合い、職員間で共有してケアに繋げている。思いの表出の少ない方は、身振りやうなづき、表情から把握したり家族から話を聞いたりして本人本位に検討をして、思いに寄り添う支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、介護計画を作成している	日常の様子を記載したチェック表を基に、ケアプラン確認表を目安にしてモニタリングを行いケアカンファレンスで職員の意見を反映させ検討している。個々に重点目標を設定して問題や課題について話し合い情報を共有してケアに努めている。本人や家族の意向や思い、医師や訪問看護師など関係者の意見等踏まえながら現状に即した介護計画を作成している。3か月ごとに見直しを行っているが、状態が変化した場合は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医か提携医の希望を聞いている。内科は月2回提携医による往診があるため提携医に変更している方が多い。歯科は、口腔ケアと義歯の調整、歯の治療など月2回の往診がある。専門医の受診は家族の協力を得ているが、緊急時や家族が付き添えない場合などは職員で対応している。受診結果は、診療情報報告書や検査報告書で確認し申し送りで情報を共有しケアにつなげている。毎週、訪問看護があり入居者の健康管理に努めている。24時間体制の医療連携が取られており、速やかで適切な医療が受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期・重症化に向かた方針の共有と支援は早い段階で本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明している。	入居時に、重度化した場合や終末期についての指針を明らかにして、事業所のできる事の限界を詳しく説明して家族の同意を得ている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合はその都度入居者や家族に希望を再確認し計画の見直しを行っている。医師や訪問看護師、その他関係機関と話し合いながら入居者の状態に合わせてその都度、病院への受診や他の施設の紹介など最善の援助ができるよう努め可能な限り希望に添うよう支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の仕方を理解している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災などの訓練は行っているが、地域との協力体制は築けていない	年2回消防署の協力を得て火災や地震など様々な災害を想定した避難訓練を昼間想定で実施している。避難誘導や避難経路の確認や初期消火活動では、消防署員の指導や助言を受け救急救命士の勉強をしてきた管理者と職員で問題点を話し合い改善に努めている。備蓄は、水や食料のほか、職員分を含め3日分が用意されている。地域との協力体制は、今後の課題となっているが、隣接する保育園との合同避難訓練を予定し、少しずつ地域との連携を築くよう努力をしている。	運営推進会議などで防災や地域との協力体制について話し合いをしたり、地域の防災訓練などにも積極的に参加をして地域との交流を深め連携を強化して、災害時に備えて近隣の方との協力関係が築かれることを願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのこれまでの生き方を尊重し個々の生活スタイルを守り、より良く過ごせるよう配慮している。職員は、日々のケアの中で、馴れ馴れしさや特に雑になりがちな言葉使いなどに配慮し、「いつ誰が聞いても不快にならない言葉使いや対応」をするよう職員間で注意をしているが、職員の対応に差がみられる。スピーチロックに関する学習会を行い、知識や技術の向上につながる努力をしている。	人生の先輩者としての人格や誇り、尊厳などについて再認識し、つい礼を欠く言葉遣いになっていないか、また入居者の行動に対して否定的になっていないかなどケアの振り返りをしていく中で、「不適切な言葉かけや態度の違和感」を職員相互で感じ取り、人格や尊厳に配慮した援助と支援が学習会を通してどの職員もできるようにしていくことを願いたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、出来る限り希望にそって支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみ等ができるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材業者の献立表に基づき栄養のバランスのよい食事や今まで慣れ親しんできた家庭料理や手づくりおやつなどを提供している。味噌汁は、社長が日本味噌汁協会の会長を務め、美味しい味噌汁を全国から取り寄せて提供している。入居者の保有能力に合わせて準備や、片付けなどその人の得意分野を生かし、職員と一緒にやっている。希望によりメニューを変更したり、毎月の行事食では、入居者の得意なお好み焼きやちらし寿司を作ったり、出前を取ったりおはぎやケーキなどのおやつ作りやすことも楽しみのひとつとなっている。家族からポテトサラダやタケノコの煮物などの差し入れがあることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力などに応じた支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、するようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の介護記録や日常の様子などで職員は排泄パターンを把握し一人ひとりに寄り添い、さりげない声かけやタイミングを工夫してその人に合ったトイレ誘導に努めている。日中は自力での排泄を目指している。夜間でも、睡眠を妨げることなく尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切にして、丁寧な見守りの支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう出来る限り支援している。	入浴は、週3回を目安に、午前中を入浴時間としている。お湯の入れ替えは適宜行い清潔に入浴できる環境を整えている。入浴剤を利用したり季節を感じるゆず湯や菖蒲湯、母の日にはカーネーション湯などで入浴を楽しむ配慮をしている。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。個人用のシャンプーやリンスを利用する方や、入浴後に化粧水や乳液などを利用し肌の乾燥に配慮している方もいる。リフト浴の設備も整っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息等出来るよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬を理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望にそって、戸外に出かけられるよう支援はあまり出来ていない。	日常的に散歩に出掛けられる環境にあり、お天気の良い日は、ベランダで洗濯物干しなどなるべく外気に触れることができるように心掛けている。外出を目的にスーパーに食材の調味料などの買い物に出掛けたり、入居者の希望に添って図書館や喫茶店に出掛けたり、初詣やお弁当持参で季節の花見など家族にも声をかけ、楽しい外出ができるよう支援をしている。毎月家族と喫茶店に出掛ける入居者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ひとりひとりに合わせて支援している。購入する時は本人の財布から出すよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話したりする支援は出来ていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と食堂はワンフロアで、明るく風通しが良く開放感がある。大きな掃き出しの窓からの見晴らしがよく四季の移り変わりの様子を見ることができる。ユニットごとに色調や色彩を統一し不快な刺激がないように配慮されている。キッチンからは入居者の動きや気配がよく見渡せ、調理を行いながら入居者を見守ることができる。廊下には足元センサー付き照明などの設備があり、居間には畳コーナーやソファのコーナーが整えられ、入居者は思い思いの場所でテレビを見たり新聞を読んだり洗濯物を畳んだりして、のんびり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の扉の色を変え、それぞれ異なった玄関風になっている。内装も扉の色に合わせて落ち着いた個性のある居室となっている。居室には、筆筒やテレビなど自宅で使用していた物を持ち込んで安心できる生活の場としたり、それぞれの好みでカーペットを敷いて座椅子に座りテレビを見て寛ぐなど入居者の意向を尊重した環境づくりをしている。また、本人や家族が希望する小物や写真、位牌などを飾って居心地良く過ごせるように工夫をしている。夜間は、居室に鍵をかけて休む入居者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391000334		
法人名	株式会社 導夢		
事業所名	グループホーム導夢 (夢)		
所在地	愛知県名古屋市中川区吉良町138-4		
自己評価作成日	平成31年3月15日	評価結果市町村受理日	令和元年5月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様のペースで生活することができ、アットホームな雰囲気がある。 ・駅から徒歩1分の場所にあり、ご家族様の来所や職員の出勤に便利

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.katgokensaku.mnfw.go.jp/z3/index.php?action_kounyu_detail_2018_022_kani=true&ligvsvocd=2391000334-
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>あおなみ線荒子駅から徒歩1分という交通の利便性の高い場所に事業所は位置し、周りは住宅地や保育園が隣接している。2階建てで、白と青を基調としたモダンな佇まいの事業所は開設1年を経過し、居宅介護支援や訪問介護事業所が併設されている。居間などの共有空間や居室などもユニットや居室ごとにドア、床、壁などの色彩が工夫され、落ち着いた大人の生活空間を醸し出している。管理者も異動して5か月余り経過し、今までの良き運営や支援を継続していくことと、これからグループホームとして何を大切にしていくかを職員と共に考え、日々のケアに努めている。入居者の「今まで培ってきたこと」や「今できる」を大切にし、お好み焼きを営んでいた方、習字の先生、編み物、礼拝、季節行事の食事づくり、家事仕事など、これまでの特技や趣味、生活経験などの継続も職員に支えられ楽しみながら行っている。保育園児や中学生との交流は、入居者の笑顔と活力の源となっている。また、神社の祭礼やスーパーでの買い物、喫茶店などは地域の新しい馴染みともなっている。日本人の食事に欠かせない味噌汁の味噌は全国から取り寄せ、味や香りを楽しんだり、コーヒーや飲料水のサーバーを常設し、ティータイムを満喫している。明るいきらびのソファや畳、食卓の椅子など自分の好きな場所で、ゲームをしたり気の合う同士でお喋りしたりテレビを見てのんびりと過ごしている。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階
訪問調査日	平成31年3月25日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有および実践はあまり出来ていないと思われる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣の保育所とは年間の行事を通して交流している。日常的な交流は散歩のときや買い物するときなど、あいさつ程度だと思われる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	そういった機会はあまりないと思われる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行えていると思う。運営推進会議での内容が職員には伝わっていないため、不明瞭なところはある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	目に見えたものとしてはないが、取り組んでいると思う。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員の理解には至っていないと思われるが、身体拘束をしないケアへの取り組みは出来ていると思う。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	注意を払っているが、学ぶ機会はあまりなかったため、内部研修を予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がなかったため、今後内外での研修を予定してる。関係者との話し合い、活用は出来ていると思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行えていると思われる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望は運営推進会議や面会の機会を通じてお聞きできていると思われる。意見の反映も行えていると思う。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議の頻度は不定期だが、職員一人一人の意見を聞く時間を設けていると思う。また、積極的に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ひとりひとりの事情に合わせて柔軟に環境を整えてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の機会はあまりないが、ひとりひとりに合わせたトレーニングに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の交流の機会はあまりないが、ご利用者や施設での訪問の機会はある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員ひとりひとりがしっかり行えていると思う。そのための環境整備も随時行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員ひとりひとりがしっかり行えていると思う。入所直後だけではなく、面会時には必ず直近の様子をお伝え出来ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。職員ひとりひとりが「その時」の対応を柔軟に行えており、同時に提案、検討もできている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員ひとりひとりが個性を活かして、関係づくり出来ていると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などを通じてこまめな近況報告や世間話を通じて、関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望などを汲んで支援に努めているが、積極的には行えていないと思う。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットだけではなく、他ユニットのご利用者との関わり合い、関係性も重んじて、交流の機会を毎日の中で作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	機会があれば努めていると思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の中で職員ひとりひとりが把握に努めており、その時に対応出来る事であれば柔軟に対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話から引き出したり、ご家族と話すことで把握に努めている。また、それを活かしたケアを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の中で職員ひとりひとりが把握に努めており、その時に対応出来る事であれば柔軟に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成できている。毎日の中での発見やそれに伴う意見の交換は随時行われ、見直しのためのカンファレンスも開催している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の記入方法の見直しや方法について適宜話し合うことで、情報共有が潤滑になるよう努めている。また、実践や見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在はそういった対象になるニーズがないため行っていないが、柔軟な姿勢は常にあると思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ニーズに応じて地域資源の活用を取り入れ、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	行えていると思う。また支援に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員ひとりひとりが気づきをその都度相談するなど、行えていると思う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換および関係づくりは行えていると思う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員ひとりひとりが方針を理解し、支援を行えていると思う。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員ひとりひとりの実践力、心得などはあるが、現段階では定期的な訓練が行えていない為、今後内外での研修を取り入れ行っていく予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練は行っているが、地域との協力体制は十分ではない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ほとんどの職員が気をつけて対応している。また、ご利用者に合わせた言葉遣いも意識して行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員ひとりひとりがそのように支援出来ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員ひとりひとりがご本人の意思を優先に支援することが出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装など、ご自身で決めていただけるよう支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人が下膳したものはご本人が率先して洗ったり、得意なかたが食事の準備をしたりと毎日、支援出来ている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	そのように支援出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。自立の方はご自身の習慣で行っていただいている。訪問歯科での口腔ケアを取り入れ、そこでひとりひとりに合わせた口腔ケアの指導もしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適宜、行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適宜、行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望があれば、適宜そのように対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中もお疲れのご様子が見られた際には休んでいただくよう、お声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	そのように努めている。適宜、薬剤師に相談するなど、薬剤師との連携も図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現在、継続しての支援は少ないが、その日その時にひとりひとりの役割や楽しみごと、気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	年間での行事や、適宜希望にそって出かけられるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ひとりひとりに合わせて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ひとりひとりに合わせて支援している。希望があれば適宜、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適宜、職員やご利用者の意見を取り入れて工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現在、そのようなスペース作りを検討しており、他ユニットのご利用者も一緒に落ち着いて過ごせる空間を作る予定。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置などご利用者と一緒に決め、過ごしやすい環境作りを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫するように努めている。		